

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立飯能高等学校定時制の課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実 3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・中学校時代に不登校等を経験した生徒が多く、学校にマイナスの印象を持っている生徒も少なくない。生徒が前向きに登校し、安心できる居場所として期待され、問題解決の糸口として、教育相談が効果的に機能することが必要である。生徒と職員の信頼関係醸成のためには教科指導のみならず、学校行事や部活動等の特別活動が重要である。4年間の学習期間の中で、生徒が社会で自立した生活が営めるよう、教科指導・学校行事・部活動を通じて、より一層自主性、自律性、社会性を育み伸ばすことが必要である。	生徒が学校行事・部活動に主体的にかかわっていき指導をとおして自立できる力を育む取組。	①毎学期生徒理解のための個別面談を設定し、これを通じて学校行事に主体的にかかわることが出来ているか振り返りを行う。 ②体育祭や学芸祭等の学校行事に生徒自ら主体的にかかわれるよう企画段階から支援・指導し、生徒の満足感・達成感を更に高める。 ③学校行事・部活動をとおして生徒間の親交を一層深め、他への配慮ができるようにする。 ④外部機関、外部講師と連携して在り方生き方教育を行う	①個別面談の実施によって学校行事に主体的にかかわるきっかけとなったか。 ②体育祭や学芸祭に生徒会役員をはじめ一人ひとりが主体的にかかわることができたか。また、満足感・達成感は昨年以上に高まったか。 ③生徒間のコミュニケーションが適切に図れ、学校定着度の向上や他への配慮や気遣いがみられたか。 ④外部機関との連携が図られたか。また、学校行事に主体的にかかわるきっかけとなったか。	・自立支援指導は順調に実施できている。 ①今年度も年度当初の三者面談に始まり、各考査後5回の面談を実施できた。 ②体育祭の参加率96%で昨年の96%に続き、高出席率を維持している。生徒会を中心とする生徒役員は準備から片付けまでしっかり取り組む事ができた。 ③コミュニケーション力の向上を目的とし、春の遠足でアドベンチャー教育を実施した。今年度は陸上で県大会に新たに参加できるなど、生徒間の親交が一層深まった。 ④6月に業者を招いて進路ガイダンスを実施。7月の薬物乱用防止講座、9月の喫煙防止講座、11月の在り方生き方教育、12月・3月(2回予定)の就職支援講座で外部講師を招聘し、見聞を深められた。	A	・生徒状況について本年度の長期欠席率は、中学校段階の長期欠席率と比べて約30%程改善している。中退数も昨年度の6名から6名と現状維持している。個別面談の実施について、欠点保有等以外の指導の観点を意識した指導手法を模索する必要がある。 ・体育祭、学芸祭は参加状況も含め、計画通り順調な指導ができていた。その他の行事についても、生徒会役員を中心とした生徒の主体的な行事参加ができるよう指導を継続する必要がある。 ・今年度の外部講師は生徒の就職支援からも有効であった。来年も引き続き一層の教育効果があるよう外部講師の活用を検討する必要がある。
2	・多様な学習歴を持ち、ほとんどの生徒が小中学校の段階で学習につまずいた経験をもつ。学習意欲に課題がある裏には学習面における成功体験の少なさも要因の一つと考えられる。分かる・できる体験を積み重ねることに一層意を注ぐ必要がある。本校4年間の学習活動が、卒業生のよりよい社会生活につながるよう留意することが必要である。	生徒一人ひとりに対して、分かる・できる学習指導を充実させ基礎基本を定着させる取組。	①学習サポーターを活用して分かる・できるを体験させ、学習意欲の向上を図る。 ②教員間の授業公開をとおして授業改善の方策を検討し合い、授業が分かる・できるという体験を積み重ねさせる。 ③本校の進路指導の継承及び改善を通じ、生徒のよりよい進路実現を図る。	①課題をもつ生徒への支援により、学習意欲の向上がみられたか。生徒自身ができるようになった実感を持てたか。 ②授業公開をとおして分かる・できる授業への取組がなされたか。 ③進路指導計画の改善による組織的な進路指導ができたか。	・学習指導の改善、授業改善の取り組みを実施できている。 ①学習サポーター等の丁寧な支援で課題を抱えた生徒も少しずつ、分かる・できる体験をしている。 ②11月に授業公開週間を実施。多様な学習歴をもつ生徒の入学もあり、授業状況について日頃から活発に情報交換できている。 ③今年度、4年生の進路指導を早期開始し、9月中旬より、速やかに就職試験・AO入試の受験が行え、8割の進路決定ができた。	A	・学習サポーターの配置を精査し生徒の学習意欲と努力が向上する活用法を工夫する。 ・就職支援アドバイザーの更なる有効活用を検討して、進路実現を可能にする生徒の就職支援の改善を引き続き実施する。 ・よりよい授業づくりについて引き続き情報交換を密にする。
3	・学校の教育活動には、保護者・地域の協力が欠かせない。4年間で生徒が大きく成長する定時制の特性を保護者、中学校、地域に十分浸透させるまでには至っていない。ホームページの積極的な更新と、保護者には学校行事への参加を促し、保護者との連携で教育改善を図る。あわせて中学校との連携を一層深める。	保護者との連携、中学校との連携を深め、働きながら学ぶ定時制教育を一層充実させる取組。	①PTA 下校指導を年間2回実施し、学校と家庭で手を携えて指導にあたる。 ②学校説明会・中学校訪問を実施し、生徒の指導に活用するとともに定時制を正しく理解してもらう機会とする。 ③学校HPにより、学校情報を積極的にPRできたか。	①保護者の定時制への理解が深まり、協力が得られたか。子どもの成長を保護者が実感できているか。 ②学校説明会・中学校訪問を生徒理解に活用できたか。中学校への定時制PRの機会とできたか。 ③定時制の特性を正しく理解してもらうホームページ更新及びホームページ管理の組織化ができたか。	・PTA・中学校との連携、HP等広報活動の改善ができている。 ①9月にPTA下校指導を実施し、PTA役員を中心に下校指導保護者の協力を得ることができた。 ②1月に市内の中学校他、在校生の多い中学校の訪問・情報交換を実施。12月に学校説明会を実施し中学生及び中学校教員への説明を実施できた。 ③今年度情報担当職員に管理職と共同してHP対応を依頼できた。	B	・PTA 下校指導は教員・保護者間、保護者同士の連携を深める機会としても機能している。次年度も継続実施する。 ・中学校との連携は、中学校側の定時制理解、本校の生徒理解、生徒募集の面でも大変有効である。年度当初の連携を含め、引き続き平時から情報交換できる関係を構築していく。

学校関係者評価	実施日 平成29年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・今後も今年度同様、生徒の力を引き出し、生徒にとって、よりよい成果が得られるよう、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。 ・進路決定率の大幅な向上からも、教職員が一丸となって、取り組んでいる姿勢が伝わってくる。次年度も時宜にあった取組の実践を期待している。 ・定時制への理解を充分に得ることは大変困難であるが、情報伝達のためのHPの改善やPTA、中学校と引き続き、十分に連携し、教育活動の改善に努めて欲しい。